



|           |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| 学校教育ビジョン  | 私もみんなも幸せな学校                        |
| 【学校教育目標】  | 学びを思いっきり楽しむ子 自分も人も大切にできる子 自分に挑戦する子 |
| 【めざす子ども像】 |                                    |
| 【めざす教師像】  | 心理的安全性の高い教職員集団                     |
| 【研究主題】    | 「自ら学びを拓き、主体的に取り組む子の育成」             |

| 評価の項目                  | 今年度の重点目標  | 具体的取組  | 主担当              | 現状及び取組状況   | 評価の観点  | 実現状況の達成度判断基準  | 備考                     | 判定結果(中間) | 判定結果(最終) | 今後の改善策 |
|------------------------|---|--|------------------|--|--|---|------------------------|----------|----------|--------|
| ①教育課程<br>学習指導          | 自ら学びを拓き、主体的に取り組む子の育成                                    | 自分の学びに対しての振り返りを行い、学びの自覚化と次の課題を自分で見つけられる授業を行う。  | 研究<br>教務         | 昨年度は自ら問いをもち、学習に取り組んできた。その結果自ら学習問題を考えようとする意識、質の高まりが見られた。しかし、主体的に取り組むという点で、見通しを持ってなかったり、粘り強さに課題が見られる。そこで今年度は、児童が自ら学びを拓き、自分の学びに対しての成長を感じられる授業を行いたい。 | [満足度指標]<br>授業で学んだことを次の学<br>びに生かすことができる。            | 授業で学んだことを次の学<br>びに生かすことができ<br>た。割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満           | 7月と12月に児童に<br>アンケートを実施 |          |          |        |
| ②生徒指導<br>※いじめの未然<br>防止 | 生徒指導の4つの視点のある<br>授業づくりを行う。                              | 多様性を認め合いながら学び合う場を設定し、<br>共感的な人間関係を育成する。  | 生徒指導             | 主体的に学びへ向かう児童が増えた一方、児童間の関係が固定化されたり児童同士で学びを進めることには課題があった。お互いを認め合ったり学び合ったりすることで、いじめの早期発見に努め、共感的な人間関係の育成に努める。  | [満足度指標]<br>学校が楽しいと感じている。                           | 学校が楽しいと回答した児童の割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満                             | 7月と12月に児童に<br>アンケート実施  |          |          |        |
| ③キャリア教育<br>進路指導        | 自分の良さに気付き、主体的に行動できる児童を育成する。                             | 総合や行事で地域人材を活用した体験型学習を通して、自分の良さに気付かせる。また学習を振り返り、自己の成長を自覚させる。                              | キャリア担当           | 素直な児童が多い一方、自分に自信を持ってない児童が多い。豊富な地域人材を活用して本物に触れる機会を設けたり様々な活動をしたりすることで、自己肯定感を高め、自分の良さに気付かせる。  | [満足度指標]<br>自分に良いところがあると感<br>じている。                  | 自分に良いところがあると回答した児童の割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満                        | 7月と12月に児童に<br>アンケート実施  |          |          |        |
| ④保健管理                  | 心身の健康を保つため、進んで健康な生活を送ろうとする子を目指す。                        | 自分の生活を見直し、よりよく生活しようとする機会を設ける。  | 体づくり部            | メディア使用による睡眠不足の児童がおり、生活リズムが不規則になっている傾向がある。児童・保護者への啓発を続け、進んで健康な生活を送ることができるようにする。   | [成果指標]<br>自分で目標を立て、心もからだも健康に過ごすことができるよう生活することができる。 | 「生活見直し週間(はなまる生活)」の取組の達成率が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満                     | 7月と11月の児童の<br>取組の達成度   |          |          |        |
| ⑤安全管理                  | 児童・教職員の防災への意識を高めると共に、「自分の命は自分で守る」ために行動できることを目指す。        | 学校安全計画に基づき、各教科や特別活動で「自分の命は自分で守る」ための行動について考えさせ、めあてを持って訓練に取り組む。                            | 教頭               | 地震や火災等の避難訓練では、適切に行動することができる児童は多い。しかし、日頃から身近にある危険や防災について考え、行動できる児童は少ない。自分の身を守るためには日頃から安全に対する意識を高めておく必要がある。  | [成果指標]<br>学校生活全般において、自分で考えて命を守る行動を取ることができる。        | 学校生活(授業を含む)において、「自分の命は自分で守る」ために考えて行動できた児童の割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満 | 7月と12月に児童アンケート実施       |          |          |        |
| ⑥特別支援教育                | 児童の特性や個性に寄り添った組織的な支援体制の確立に努める。                          | 共感的な人間関係を築いていく中で、支援を必要とする児童に対して、校内支援委員会で児童の特性に寄り添った支援の在り方を検討し、SCや専門相談員等とも連携し組織的に支援に取り組む。 | 特別支援<br>コーディネーター | 4月下旬に担任からの聞き取りをもとに校内支援委員会で困り感のある児童を把握し、専門相談など外部の機関を活用しながら、その児童の特性に寄り添った支援を検討し組織的に支援していく必要がある。  | [努力指標]<br>児童の個性や特性に寄り添い、組織的に支援する。                  | 児童の個性や特性に寄り添い、組織的に支援できた。割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満                   | 7月と12月に教職員にアンケート実施     |          |          |        |
| ⑦組織運営<br>業務改善          | 教職員が連携を図り、組織的・協動的に業務を行うことができる体制をつくる。                    | 学校運営ビジョンの具現化に向けて、児童の主体性を育む教育活動を行えるよう、分掌部会や主任会、運営委員会、職員会議を計画的に行い、組織的・協動的に業務を行う。           | 教頭<br>教務         | 職員は、組織的にボトムアップすることで、学校運営に参画し活動する意識が高まってきているが、十分に機能していない状況がある。新しい視点やアイデアを取り入れながら、児童の意思や主体的な学校づくりに向けて、組織的・協動的に教育活動を充実させる必要がある。                     | [努力指標]<br>学校運営ビジョンを実現するために、組織的・協動的に業務を行う。          | 学校運営ビジョンを実現するために、組織的・協動的に業務を行うことができた。割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満      | 7月と12月に教職員にアンケート実施     |          |          |        |
| ⑧研修                    | 教員も学び手として、自身の専門性向上に向けて、新たな知見や指導法への挑戦を楽しみながら、自律的な研鑽に努める。 | 外部研修や他校視察、校内での実践を見た中で得た「気づき」を共有する場を設定する。   | 若プロ              | 校内研修や外部研修などを通して、様々な知識や取り組みを実践に見て、校内で実践する様子が見られている。取り組みが個人だけのものとなってしまっていたので、全体で共有し、さらにアップデートしていける場を設定していく必要がある。                                   | [成果指標]<br>さまざまな研修を通して学んだことを、実践し、共有したか。             | 校内・校外の研修で学んだことを実践し、共有することができたか。<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満               | 7月と12月に教職員アンケート実施      |          |          |        |
| ⑨保護者<br>地域との連携         | 教育活動の発信に努め、保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりをめざす。                    | CS等により地域の方々と連携し、よりよい学習活動に取り組み、ふるさと教育の充実を図る。  | 教頭               | 児童が地域の良さを知り、地域の一員としての意識を高めるためにも、探Q学習を通して、保護者や地域と連携した活動の充実を図ってきた。今後もCS等と連携しながら学習し、地域に発信していく工夫していく。  | [努力指標]<br>学習活動の中で、地域との連携を意識した取り組みを行っている。           | CS等を活用し、地域と連携した取組を行ったと回答した教職員の割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満             | 7、12月に教職員にアンケート実施      |          |          |        |
| ⑩教育環境整備                | ICTを効果的に活用し、子どもが主役の授業を行うための学びの場を整備する。                   | ICTを活用し、児童が主体的に学ぶことができるよう、ICTサポーターと連携しながら学習環境を整える。                                       | 総務               | ICTの効果的な活用については教職員によって差がある。ICTサポーターなどの外部人材を積極的に活用することで、授業改善を進め、児童が主体的に学習に取り組めるように学習環境の整備に取り組んでいく。  | [努力指標]<br>ICTを効果的に活用し、児童が主体的に学習できるような環境整備に取り組んでいる。 | ICTの整備により授業改善につながったと感じる職員の割合が<br>A: 90%以上 B: 80%以上<br>C: 70%以上 D: 70%未満                 | 7、12月に教職員にアンケート実施      |          |          |        |

|         |  |
|---------|--|
| 学校関係者評価 |  |
|---------|--|